
ある日、妖怪が見えるようになった。

注) この小説は作者の願望をそのまま書いています。

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ある日、妖怪が見えるようになった。

【Nコード】

N0730BA

【作者名】

注)この小説は作者の願望をそのまま書いています。

【あらすじ】

アドバイス、感想いただけたら嬉しいです。

【あらすじ】

高校生、東雲悠太は普通の高校生であった。
普通に友達と遊び、普通に恋をして、普通にテストの点が悪く…
だけどある日妖怪が見えるようになり！？
\ドキッ！妖女だらけのうざカワストーリー！ノ

01：キャラクター紹介

キャラクターが増えるごとに、編集します。

しのめ ゆうた
東雲悠太

性別：男 年齢：16歳高校2年

- ・ある日いきなり妖怪が見えるようになった
- ・姉と二人暮らし
- ・家事ができる
- ・アニメやゲームが好き。

しのめ えみ
東雲恵美

性別：女 年齢：21歳

- ・悠太の姉
- ・悠太が妖怪が見えることを知らない
- ・お酒大好き

しのめ
座敷わらし

性別？：女 年齢： 歳

- ・悠太と恵美がすんでる家に憑いてる妖怪
- ・妖女
- ・古風
- ・通称「わり」

02:ある日夜空を見ていたら。

ピンポンと聞きなれた音が聞こえる。

「はいはい。今開けるー」

「ゆーーたーーおさけーー」

家に帰ってくるやいなや、第一声がこれか。

「酒って、もう酔っ払ってるじゃん。」

「よってるー？このあたしがよってるー？またまたーー」
「冗談をー」

そう言いながら、俺に抱きついてくる。

服の隙間から、見える。

「ちよっ！姉さん見えてる見えてる！」

「襲っても…良いんだよ？」

「襲わないよ！！良いから、寝てろって！」

「ゆーたがそう言うならしかたないなー。おねえちゃん、寝ちやうー」

「はいはい…ちゃんと着替えるよ？」

「着替えさせて?」

「やらないから!」

「うー…ひつく。じゃあおやすみのちゅー」

「しないから!」

「ぐすん。おねえちゃんは悲しいよ。昔のゆーたならしてたのに…」

「してないから!いいから寝て!」

「うー…ひつく。りょーかいましたー!」

かわいらしく敬礼をして、自分の部屋に向かっていく。

ちなみに、俺は姉ちゃんと二人暮らし。

と、言ってもマンションだが…。

「ふー…今日も大変だったな。」

このごろのお気に入りは、オレンジジュースを飲みながら夜空を見ること。

夏の星は綺麗だ。

「もっとお上品な姉がよかった…」

独り言をつぶやく。

当然、誰も返してくれない。

「ふむ。…確かにあの姉は酷い酒飲みじゃのう。」

「だよなー酒好きでよっぱらいじゃなかったら、可愛いのに。」

…ん？

俺の独り言は1人で言うから独り言であって

「うむ。私もそれは思うぞ。」

会話が成立してるってことは…

「だ、誰!？」

声がした方向を見ると、和服姿の小学生が居た。

「ん？私か？私は、座敷わらしじゃ。」

平然と言つてのけたその少女。

もとい妖女はこう続けた。

「あれ…何でお前私が見えるのじゃ？」

俺はある日、妖怪が見えるようになった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0730ba/>

ある日、妖怪が見えるようになった。

2012年1月2日11時48分発行